

第69回舞踊学会大会

「継承と創造のためのアーカイヴの方法」

■企画の趣旨

単なる記録資料の保管ということのみならず、過去のダンスを継承し、未来のダンス創作の糧とするための仕組みとしてダンス・アーカイヴへの注目が高まっている。とは言え、日本における現状は、十分にその注目や要求に応えているとは言いがたく、多くの課題を有しています。なぜこのような現状にあるのか、どのようにすれば望むべき針路へと進むことができるのか、この点についての基礎的な検討は急務であるに違いありません。本大会は「継承と創造のためのアーカイヴの方法」というテーマを掲げることで、アーカイヴのとくに「活用」という点に焦点を絞り、アーカイヴをめぐるあるべき姿の探求を目的とします。

アーカイヴの「活用」という点を考えるに、その要素を教育的活用、研究的活用、創造（創作）的活用という三分野に分けてみました。そのそれぞれの分野において、今日どのようなアーカイヴの試みがあり、またどのようなアーカイヴの活用の実践があるのか、事例を取り上げながら、考察を深めてゆきます。

■期日：2017（平成29）年12月2日（土）・3日（日）

■会場：日本女子大学目白キャンパス

■主催：舞踊学会

■全体スケジュール

| 12月2日(土) | 12月3日(日) |
|---|---|
| / | 9:30～ 受付 百年館 演 52 教室 |
| | 10:00～12:00 <一般研究発表> 百年館 504, 505 教室 |
| 12:00～13:20 <理事会> 新泉山館第4会議室 13:00～ 受付 香雪館 203 教室 | 12:00～13:00 昼食 百年館 501 教室, 演 51 教室ほか |
| 13:30～15:10 <一般研究発表> 香雪館 201, 202 教室 | 13:00～15:00 <シンポジウム> 八十年館 851 教室 |
| 15:20～17:20 <シンポジウム> 香雪館 401 教室 | 15:10～16:40 <講演> 八十年館 851 教室 |
| 17:30～18:30 <総会> 香雪館 401 教室 | |
| 18:30～20:00 <懇親会>七十年館 2階学生サロン (総会終了次第開始) | |



新泉山館

【プログラム】 第1日目：12月2日（土）

■ 13:00～ 受付開始 【香雪館 203 教室】

■ 13:30～15:10 一般研究発表 [各 発表 15 分・質疑 5 分]

●一般研究発表 【第1会場 香雪館 201 教室】

| 予定時刻 | 氏名 | 所属 | 題目 | 座長 |
|-------|--|--|---|-------------------------|
| 13:30 | 中村恭子◎ 中村なおみ 宮本乙女 | 順天堂大学 東海大学 日本女子体育大学 | 現代的なリズムのダンスの学習内容と指導方法の検討: ヒップホップのリズムを教材とした授業実践 | 塚本順子 (天理大学) |
| 13:50 | 田巻以津香◎ 山崎朱音 朴京真 成瀬麻美 鈴木純 佐藤菜美 | 東海大学 静岡大学 筑波大学 愛知教育大学 東北文科大学 新潟青陵大学 | 「リズムダンス／現代的なリズムのダンス」における 指導内容の明確化と構造化に向けた試み | |
| 14:10 | 豊福彬文◎ 野邊杜平 児玉孝文 | コンテンポラリー ダンスカンパニー 「んまつー波斯」 | 「日本型教育の海外展開推進事業(EDU-Port ニッポン)」 パイロット事業と創作ダンス | 福本まあや (お茶の水 女子大学) |
| 14:30 | 張瓊方◎ 木山慶子 | 台湾実践大学 群馬大学 | 台湾における「国舞」の継承と創造：学生舞踊コンクール における作品に着目して | |

●一般研究発表 【第2会場 香雪館 202 教室】

| 予定時刻 | 氏名 | 所属 | 題目 | 座長 |
|-------|-------|------------------|---|-----------------------|
| 13:30 | 古後奈緒子 | 大阪大学 | 19世紀末電気博覧会におけるバレエと女性像 | 森立子 (日本女子 体育大学) |
| 13:50 | 齋藤尚大 | 横浜カメラリアホス ピタル | タンツビューネの黎明期—チューリッヒ時代のルドルフ・フォン・ラバンとラバンシュレについて | |
| 14:10 | 斎藤慶子 | 北海道大学 | ソヴィエト・バレエ教育改革とその日本への伝播 | 鈴木晶 (早稲田 大学) |
| 14:30 | 佐藤真知子 | お茶の水女子大学 大学院 | ニジンスキー振付作品の受容とその評価—《牧神の午後》(1912), 《遊戯》(1913), 《春の祭典》(1913) に着目して— | |
| 14:50 | 壽田裕子 | 舞踊学会 | パリ・オペラ座のダンサー像—パトリック・デュボンとエリーズ・ロペルの自伝を中心に— | |

■ 15:20～17:20 シンポジウム「記録と活用—三つの分野をめぐる」【香雪館401 教室】

司会：松澤慶信（日本女子体育大学）

提題者：遠藤保子（立命館大学）

俵木悟（成城大学）

柴田隆子（学習院大学）

■ 17:30～18:30 総会 【香雪館 401 教室】

■ 18:30～20:00 懇親会 【七十年館 2階 学生サロン】

※ダンス実演

『Bongo Bongo』William Forsythe 振付

日本女子体育大学 ダンス・プロデュース研究部

【プログラム】第2日目：12月3日（日）

- 9:30～ 受付開始 【百年館低層棟 演 52 教室】
- 10:00～12:00 一般研究発表 [各発表15分・質疑5分]

●一般研究発表【第1会場 百年館低層棟 504 教室】

| 予定時刻 | 氏名 | 所属 | 題目 | 座長 |
|-------|-----------------|---------------------------|---|--------------------|
| 10:00 | 中村なおみ◎ 和田雅子 | 東海大学 お茶の水女子大学 附属中学校 | ダンス授業における「身体や動きを媒介としたコミュニケーション」を用いた教師行動に関する考察～授業者へのインタビューを中心に | 猪崎弥生 (お茶の水女子大学) |
| 10:20 | 君和田雅子◎ 中村なおみ | お茶の水女子大学 附属中学校 東海大学 | 教師の「身体や動きを媒介としたコミュニケーション」に着目したダンス授業の実践 | |
| 10:40 | 高橋るみ子◎ 野邊麻衣子 | 宮崎大学 宮崎大学教育学部 附属小学校 | ダンス鑑賞教室をセットした新しい遠足 | |
| 11:00 | 井上淳生 | 北海道地域農業 研究所 | 互いに接近を試みる舞踊と音楽—カラオケパブにおける踊り手と音楽提供者を事例に— | 貫成人 (専修大学) |
| 11:20 | 藤田明史 | 関西学院大学 大学院 | ダンサーの視線と向きについての一考察—ストリートダンスを事例として | |
| 11:40 | 柿沼美穂 | 国立環境研究所 | 人間の movement と「ことば」の関係—実験の試みとその考察 | |

●一般研究発表【第2会場 百年館低層棟 505 教室】

| 予定時刻 | 氏名 | 所属 | 題目 | 座長 |
|-------|---------------|--------------------|--|------------------------|
| 10:00 | 呉宮百合香 | 早稲田大学大学院 | 笠井毅, エマニュエル・ユイン『シュピール』(2011-2013)における多言語使用の意味 | 國吉和子 (舞踊研究・ 評論) |
| 10:20 | 太田真由 | お茶の水女子大学 大学院研究生 | デボラ・ヘイの振付の概念 | |
| 10:40 | 桑原和美 | 就実大学 | 榎茂都陸平振付《熱情奏鳴曲(ソナタ・アパッシヨナタ)》—第1楽章について— | |
| 11:00 | 吉田駿太郎 | 東京藝術大学 大学院 | 矢野英征(1943-88)とダンス・アーカイヴ—振付ノートに現れる図的要素とその役割— | 松澤慶信 (日本女子 体育大学) |
| 11:20 | 関典子◎ 岡元ひかる | 神戸大学 神戸大学大学院 | アーカイヴを活用した舞踊の再構築・再創造—薄井憲二バレエ・コレクション第15回企画展「蘇る白鳥～『瀨死の白鳥』舞踊譜をめぐって～」を事例として— | |
| 11:40 | 岡元ひかる◎ 関典子 | 神戸大学大学院 神戸大学 | 舞踊における「身体の分節化」再考—オハッド・ナハリン(Ohad Naharin 1952-)のGAGAと舞踏譜に着目して— | |

- 12:00～13:00 昼食【百年館低層棟 501 教室, 演 51 教室ほか】
- 13:00～15:00 シンポジウム「創作の現場と『アーカイヴ』の活用」【八十年館 851 教室】
 司会：木村覚（日本女子大学）
 提題者：手塚夏子（振付家）
 大脇理智（YCAM 山口情報芸術センター）
 富田大介（追手門学院大学）
- 15:10～16:40 講演「江口隆哉とアーカイヴ—『プロメテの火』を中心に」【八十年館 851 教室】
 司会：國吉和子（舞踊研究・評論）
 提題者：金井英三枝（日本女子体育大学名誉教授）
 桑原和美（就実大学）
 坂本秀子（日本女子体育大学）

舞踊学会大会 特集 総括

第69回舞踊学会大会では「継承と創造のためのアーカイヴの方法」というタイトルで特集が組まれた。大会当日に配布された大会プログラムにも記載したものであるが、以下の「企画の趣旨」をもとに準備が行われた。

企画の趣旨

単なる記録資料の保管ということのみならず、過去のダンスを継承し、未来のダンス創作の糧とするための仕組みとしてダンス・アーカイヴへの注目が高まっている。とは言え、日本における現状は、十分にその注目や要求に込められているとは言いがたく、多くの課題を有している。なぜこのような現状にあるのか、どのようにすれば望むべき針路へと進むことができるのかについての基礎的な検討は急務であるに違いない。本大会は「継承と創造のためのアーカイヴの方法」というテーマを掲げることで、アーカイヴの活用という点に焦点を絞り、アーカイヴをめぐるあるべき姿の探究を目的とする。

アーカイヴの「活用」という点を考えるに、その要素を教育的活用、研究的活用、創造（創作）的活用という3分野に分けてみたい。1日目のシンポジウムでは主に教育的活用と研究的活用を、2日目のシンポジウムと講演では主に創造（創作）的活用を問うことになる。それぞれの分野において、今日どのようなアーカイヴの試みがあり、またどのようなアーカイヴの活用の実践があるのか、事例を取り上げながら、考察してみたい。

以上からわかるように、本特集は主に日本のダンス・アーカイヴの現状を確認することのみならず、ダンス・アーカイヴの「活用」の可能性に思いを馳せ、活用のイメージを膨らませるところに主眼があった。アーカイヴが先か、活用のイメージが先か、そんな「鶏が先か、卵が先か」のようなジレンマの前でフリーズしてしまう状態から脱して、まずはこんな風に活用ができれば良いのではとの思いを強く持つことで、私たちの求めるアーカイヴ像を具体的に明確にし、それによって活用可能性の高い有意義なアーカイヴの設立を促すことができるのではないかと、そう考えたわけである。

当日は、2つのシンポジウムと1つの講演が行われ、6人の提題者と3人の講演者によって実りの多い時間となった。

1日目のシンポジウム「記録と活用—三つの分野をめぐる—」は、「企画の趣旨」に記した通り、アーカイヴの教育的活用と研究的活用にフォーカスし、3人の提題者それぞれの専門に関わる3分野、すなわち国際教育（遠藤保子先生）、日本の民俗学（俵木悟先生）、ドイツ語圏のアーカイヴ（柴

田隆子先生）をめぐる、各々の現状と課題をお話いただき、それらを重ね合わせた。アフリカの舞踊を研究されている遠藤先生からは、研究成果を反映する形で製作された小学校高学年向けの教材をご紹介いただいた。パソコン・ソフトの体裁をとった教材には、小学生たちの興味を引きつけるための様々な工夫が凝らされており、単なる記録の収集と保管といった発想からは出てこない、活用を促す取り組みの実際が示された。俵木先生からは、民俗学あるいは文化財保護の分野での記録と保存の歴史と現状が報告された。地域の芸能などの活動記録を残した民俗資料をめぐり、目的を意識せぬまま収集それ自体が自己目的化していた状況から、一元的に管理運用する制度を生み出すまでのプロセスが説明された。そこで浮き彫りになったのは、記録の収集と保管にとって目的意識の自覚と共有が非常に重要であるということであった。柴田先生からは、ドイツ語圏においては、研究者のみならず一般の市民にも活用の窓口が開かれ、過去作品の構成や新演出が実施されるなど、アーカイヴのプロジェクト自体が活発な研究と創造と教育の場になっていることが紹介された。

2日目のシンポジウム「創作の現場と『アーカイヴ』の活用」は、主として創作のためのアーカイヴの活用が議論された。とくにフォーカスが当てられたのは、アーカイヴの媒体のことであった。例えば、大脇理智さんが紹介して下さったのはテクノロジー（とくにモーションキャプチャーや動画配信サイト）によるアーカイヴであり、手塚夏子さんの場合は手紙の形態でまとめられた指示書を瓶に詰めた「漂流瓶」であり、富田大介先生の場合は本であった。媒体が変わると、それを活用する意欲や意思のかたちも変わる。創作という点に鑑みて、アーカイヴの重要な機能は、他者の創造性を発火させるところにあるだろう。それぞれの媒体がそれぞれの仕方で独自の創造の発火装置でありうる、そのことが明らかになるシンポジウムとなった。

2日目には講演「江口隆哉とアーカイヴ—『プロメテの火』を中心に—」も行われた。金井美三枝先生からは、「江口・宮アーカイヴ」の活動やその結実である『プロメテの火』復元公演について、とくにどんな点を留意してアーカイヴの運営をなさってきたのかについてお話をいただいた。その後、桑原和美先生からは『プロメテの火』に関連する資料をDVDにまとめたアーカイヴについてご説明いただいた。坂本秀子先生にはフロアからの質問にお答えいただいた。お三方の先駆的な活動を概観させていただくことで、継承と創造のために何が必要であるのかの知恵を授けられた思いがした。

文責 木村覚